

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
人間の尊厳と自立	講義	15	30	1	前期	金曜	1限	必修	町田 晴美
[科目のねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。									
[科目の概要] 人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史の変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。									
[到達目標] ①人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できる。 ②人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「人間の理解」（中央法規） ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明				9	人権尊重と権利擁護			
2	人間の尊厳と利用者主体				10	ハンセン病資料館見学			
3	人権思想の潮流とその具現化				11	自立の概念の多様性			
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定				12	自立とは			
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①				13	介護を必要とする人々の自立と自立支援			
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②				14	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立 自立支援の関係性			
7	ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン				15	授業振り返りとまとめ			
8	QOLという考え方				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の管理者、介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、人間の尊厳、人権、権利擁護について教授する。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	講義	15	30	1	前期	木曜	2限	必修	長島 隆行
[科目のねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要] 人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。またコミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。									
[到達目標] ①人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できるようになる。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「人間の理解」(中央法規) ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明				9	コミュニケーションの手段①			
2	人間らしさのはじまり				10	コミュニケーションの手段②			
3	自分と他者の理解				11	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション			
4	発達心理学からみた人間関係				12	対人援助における基本的態度①			
5	社会心理学からみた人間関係				13	対人援助における基本的態度②			
6	人間関係とストレス				14	援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則			
7	コミュニケーションの概念				15	授業振り返りとまとめ			
8	コミュニケーションの基本構造				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員を経験し、現在は施設長として勤務している。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
人間関係とコミュニケーション	講義	15	30	1	後期	木曜	1限	必修	長島 隆行
[科目のねらい] 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チーム運営の基本や人材育成の管理方法を養うための学習とする。									
[科目の概要] チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の基礎を養う。									
[到達目標] ①介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理を理解できるようになる。 ②人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解できるようになる。									
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「人間の理解」(中央法規) ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	組織におけるコミュニケーション				9	介護福祉職のキャリアと求められる実践力 介護福祉職としてのキャリアデザイン			
2	ヒューマンサービスとしての介護サービス				10	介護福祉職のキャリア支援・開発			
3	介護現場で求められるチームマネジメント				11	自己研鑽に必要な姿勢			
4	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み				12	介護サービスを支える組織の構造			
5	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み				13	介護サービスを支える組織の機能と役割			
6	チームでケアを展開するためのマネジメント				14	介護サービスを支える組織の管理			
7	チームの力を最大化するためのマネジメント				15	授業振り返りとまとめ			
8	介護福祉職のキャリアと求められる実践力				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員を経験し、現在は施設長として勤務している。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者	
社会の理解Ⅰ	講義	15	30	1	後期	水曜	1限	必修	町田 晴美	
[科目のねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。										
[科目の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。										
[到達目標] ①個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。 ②地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解できる。 ③社会保障制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できるようになる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「社会の理解」（中央法規） ②配布資料					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。					
回数	授業内容				回数	授業内容				
1	生活を幅広くとらえる				9	地域共生社会				
2	生活の基本機能				10	地域包括ケア				
3	ライフスタイルの変化				11	社会保障の基本的な考え方				
4	家族の機能と役割				12	日本の社会保障制度の発達				
5	社会・組織の機能と役割				13	日本の社会保障制度のしくみ				
6	地域・地域社会				14	現代社会と社会保障制度				
7	地域社会における生活支援				15	授業振り返りとまとめ				
8	地域福祉の発展				特記事項					
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	70%	5%			25%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験70% 小テスト5% 課題25%				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の管理者、介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、家族機能、地域社会、家族制度について教授する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
社会の理解Ⅱ	講義	15	30	2	前期	火曜	3限	必修	松浦 信二
[科目のねらい] 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。									
[科目の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。									
[到達目標] ①高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解できるようになる。 ②障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法、障害者福祉の現状と課題を理解できるようになる。 ③人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度、施策の基本的な考え方としくみを理解できるようになる。									
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「社会の理解」（中央法規）					[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと。 専門用語を理解できるように自己学習をすること。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	高齢者保健福祉の動向				9	障害者総合支援制度②			
2	高齢者保健福祉に関連する法体系				10	障害者総合支援制度③			
3	介護保険制度①				11	個人の権利を守る制度・施策			
4	介護保険制度②				12	保健医療に関する制度・施策			
5	介護保険制度③				13	貧困対策・生活困窮支援に関する制度・施策			
6	障害者保健福祉の動向				14	地域生活を支援する制度・施策			
7	障害者保健福祉のに関連する法体系				15	授業振り返りとまとめ			
8	障害者総合支援制度①				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%			
[教員実務経験] 大学教員として社会福祉士養成に携わる。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
文章表現	講義	15	30	1	前期	火曜	3限	必修	町田 晴美
[科目のねらい] 人が信頼を築いていく為には「聞く」「話す」「書く」「読む」などコミュニケーションの基本を確実に身につけることである。日本の伝統文化に触れ、礼節の心を学びながら情操豊かな人間の育成を目指す。									
[科目の概要] 日本の会話や書いて伝えることを通して、相手を意識して信頼関係を築く表現の基本を学ぶ。また、コミュニケーションを高める為に溢れる情報の中から必要な選択をし活用する。自分の考えも分かりやすい表現にする為に「受信力」と「発信力」を鍛えていく。									
[到達目標] ①「聞く」「話す」「書く」「読む」のコミュニケーションの基本を身につけ、心を伝える表現ができる。 ②情報社会の中、必要なものを選択し、活用する能力を身につける。 ③社会現象の中で関心を持つようにし「イエス・ノー」の多面的な見方を身につけ、自分の建設的な考えを発表できる。									
[使用教科書] 配布資料					[授業外学習]				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	学ぶ目標、学び方を知る。 信頼関係を築く自己紹介をする。				9	前時に書いた小論文を発表し共同修正をしよう。			
2	「人に愛され、信頼される」コミュニケーションの基本とは何だろう。考えよう。				10	学びに役立つメモの取り方、記録の取り方、相手に伝えるメモの取り方を考えよう。			
3	恩師、親、友人に手紙を書こう。				11	仕事に役立つ、お礼文、報告文を考えよう。			
4	感動したこと、伝えたいことを3分間にまとめ発表しよう。				12	職場で信頼を得る報告文を書こう。			
5	読みやすい文字の大きさと形、書き順を確認しよう。				13	組織人として礼節を重んじた言葉遣い、礼儀作法、来校者への対応を身につけよう。			
6	コミュニケーションを高めるための「受信力」「発信力」を鍛えよう。				14	本科目を通して特に学んだことベスト3を理由を挙げて発表しよう。			
7	日本の伝統文化から美しい言葉、参考にしたい文章表現を学ぼう。				15	「共に高め合う学習をする為に」話し合い、まとめとして教員の話聴く。			
8	ある社会事象の中から「イエス・ノー」のパターンで答える小論文を書こう。				特記事項				
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
				50%	50%	試験期間における定期試験なし 発表50% 課題50%			
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の管理者、介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験がある。（町田）									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
情報リテラシー	講義	15	30	1	前期	金曜	2.3限	必修	間島 直美
[科目のねらい]									
コンピューターの基本操作及び情報についての基本的な知識の習得。									
[科目の概要]									
Wordを中心にソフトウェアの操作、インターネットの検索、情報倫理・セキュリティについて学ぶ。									
[到達目標]									
1.Wordの基本操作・図形描画操作が出来るようにする。 2.情報倫理・セキュリティについての常識を習得する。 3.インターネット閲覧ソフトの操作ができ、情報検索が出来るようにする。 4.パソコンの種々の機能を統合し操作が出来るようにする。 5.スピードかつ正確に入力出来るようにする。									
[使用教科書]					[授業外学習]				
授業内資料配布									
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	授業概要、ハードウェアとソフトウェア、データの保存と課題の提出方法				9	Word・Excel： 「総合課題」文書作成、表・グラフの作成			
2	word：文字の入力と編集、文章の体裁				10	Word・Excel：統合 「総合課題」編集・作成			
3	word：図形描画1（地図の作成）				11	インターネット検索 検索エンジンの使い方 情報倫理・セキュリティについて			
4	word：図形描画2（ロゴマークの作成）				12	Word：掲示物作成			
5	word：図形描画3（オブジェクトの挿入）				13	PowerPoint：基本			
6	Excel：基本操作、表の作成				14	最終課題作成			
7	Excel：基本関数				15	最終課題（実技）			
8	Excel：IF関数				特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
	60%				40%	授業時間内での実技試験あり 実技試験60% 課題40%			
[教員実務経験]									
コンピュータ専門学校や公共職業訓練の講座を担当しており、文書作成基礎演習（Word）、表計算基礎演習（Excel）、インターネット演習等を教授している。									

授業概要

科目名	形態	回数	時間	年次	時期	曜日	時間	必修選択	授業担当者
児童福祉論	講義	15	30	2	前期	水曜	4限	必修	萬燈 章雄
[科目のねらい] 子ども親や子どもの支援方法など時代による変遷やこども家庭福祉の現状やそのフレームを理解する。									
[科目の概要] 子どもの「最善の利益」や権利擁護を目的とした児童家庭福祉のフレームを体系的に理解することが出来るように講義や事例などを通して学ぶ。									
[到達目標] 子どもやその家庭に対して社会的な支援方法や制度について理解ができるようになる。 子どもの視点やスタンスで課題を整理していくことができる。									
[使用教科書] なし。参考文献などは授業中に紹介します。					[授業外学習] 学生各自が授業前・授業後の学習ができるように配慮します。				
回数	授業内容				回数	授業内容			
1	福祉に携わる人について考えておくべきこと こども支援の特性				9	社会的養護と児童相談所			
2	子ども親の変遷について				10	児童福祉施設概要			
3	日本における児童家庭福祉				11	里親制度について			
4	少子高齢化問題について考える				12	児童虐待問題について考える			
5	児童の権利に関する条約と権利擁護				13	障がい児の支援について			
6	次世代育成支援について				14	事例考察（障がい児に関連する事例）			
7	地域で支えるこども家庭福祉				15	最終まとめ 理解度チェックテスト			
8	中間まとめ 理解度チェックテスト				特記 事項	DVDやインターネットを使うことがあります			
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準			
		60%	20%	20%		通常時間中の理解度チェックテストが2回、その他課題提出や板書など授業進行にかかる貢献度による			
[教員実務経験] 埼玉県の福祉職として主に児童相談所の児童福祉司、児童指導員、福祉事務所、精神医療センターSWなど。35年勤務。退職後は市町村支援専門員として市町村の児童相談のSV（スーパーバイザー）として埼玉県内各市町村を巡回しています。									